

不妊治療における先進医療について

日本の医療制度では、有効性と安全性が評価された治療のみ医療保険の対象となっていますが、厚生労働省が定める高度の医療技術のうち、医療保険の対象になっていないものを先進医療として行うことができます。以下の先進医療については、内容をご確認いただきご理解いただいたうえで行うことができます。

☐ 子宮内膜スクラッチ 11,000 円

着床は子宮内に一時的に炎症反応が起こり、それをきっかけに受精卵が子宮内に着床します。着床不全の場合、子宮内膜スクラッチにより子宮内膜を刺激し、着床しやすい環境を作ります。方法は月経 14 日目以降に子宮内を軽く搔くだけです。約 2-3 か月間、効果があります。 ※ 2 回以上の胚移植でうまくいかなかった場合に行えます。

☐ ERPeak 検査 92,600 円

☐ ERA 検査 132,600 円

妊娠において子宮内膜が受精卵を受け入れる時期が決まっており、その時期を「着床の窓 (Implantation Window)」と呼びます。一部の反復着床不全女性でその時期が一致していないことがあり、子宮内膜組織の遺伝子レベルで一致の有無を確認します。 ※ 2 回以上の胚移植でうまくいかなかった場合に行えます。

☐ 子宮内細菌叢検査 (子宮内フローラ検査) 42,600 円

子宮内にはたくさんの種類の細菌が存在し、良性的乳酸菌 (ラクトバチルス菌) が多いと妊娠率が高いと言われています。慢性子宮内膜炎が改善しない場合などに、詳細な子宮内細菌叢を調べることで、今後の治療方針を検討することができます。原則月経 14 日目以降に検査を行います。

※ 2 回以上の胚移植でうまくいかなかった場合、または子宮鏡等による子宮内膜炎の疑いで医師の指示により行えます。

☐ 子宮内細菌叢検査 (EMMA/ALICE) 62,600 円 (ALICE 単独 42,600 円)

子宮内フローラ検査とほぼ同様の検査で、EMMA で詳細な子宮内細菌叢が確認でき、ALICE で子宮内感染の原因菌となり得る代表的な細菌叢が確認できます。 ※ 慢性子宮内膜炎疑いの場合に行えます。

☐ 子宮内膜刺激術 (シート法) 33,000 円

受精卵を培養する培養液に着床をサポートする胚由来の因子が存在することがわかっています。胚盤胞を培養した培養液を凍結しておき、胚移植の 2-3 日前にその培養液を融解し子宮内へ注入し、その後に胚盤胞を移植し着床をサポートする方法です。 ※ 胚移植は 1 個のみとなります。

☐ 二段階胚移植法 120,000 円

初期分割胚を胚移植し、その数日後に胚盤胞を移植する方法です。初期分割胚が子宮内へ影響し胚盤胞移植の着床をサポートすると言われています。 ※ シート法で着床しなかった場合に行うことができます。

副作用はほとんどありませんが、子宮口が硬い場合に器具挿入が困難で痛みを伴います。また非常にまれですが、子宮内操作を行うことで、細菌感染を起こす可能性があります。ERPeak、ERA、子宮内フローラ、EMMA/ALICE は、子宮内膜検体の採取が難しく、検体量が不足するなどして再検査が必要となる場合があります。

☐ β 2GP1 ネオセルフ抗体 35,000 円

不育症リスク因子の血栓性素因のひとつで、微小血栓による流産が想定されます。抗凝固薬による治療の対象となります。 ※ 不育症：2 回以上の臨床的流産既往のある方です。

この先進医療を受けなくても、不利益はなく、同意書を提出後もいつでも撤回が可能です。

杉山産婦人科 院長

☐ 上記について、治療内容、自己負担費用、副作用などについて理解しました。
先進医療を行うことに同意します。

西暦 年 月 日

本人署名： (ID：)

配偶者 / パートナー署名：